

第1回Café de Monk全国サミット
日時:2022(令和4).02月25日 19:30~
場所:遠隔会議開催(Zoom)

第1回 Café de Monk 全国サミット

こうひょう



曹洞宗通大寺(宮城県栗原市築館)

本間照雄(地域福祉研究所)

お話しの内容

1. これまで見てきたCafé de Monk の整理
2. 「カフェ・デ・モンク えりも」からの学び
3. まとめにかえて(Café de Monk への期待)

(20分)

二月二十五日

日直
吉田



宮城県南三陸町設置横山仮設団地『希望のつどい』(宮城県登米市)2011.12.18







三陸海岸

Cafe de Monk

カフェ デ モンク

お坊さんの喫茶店

幸せになる

ピース訪問看護ステーション



Cafe de Monk
お話しもサベサベ？
お社さん 雑種さん 軒主さん
カフエ・ブー・キョウ

Cafe de Monk
お坊さんの喫茶店

宮城県栗原市一迫(ピース訪問看護ステーション)





バイステックの7つの原則(対人援助者の行動規範)

1. 個別化(利用者の個別性の尊重)
2. 意図的な感情表現(利用者の感情表現を大切にする)
3. 統制された情緒的関与(援助者は自分の感情を自覚して吟味する)
4. 受容(あるがままを受け入れる)
5. 非審判的態度(利用者を非難しない)
6. 自己決定(利用者の自己決定を尊重する)
7. 秘密保持(ケースワーク関係において知り得た情報は秘密保持する)

(解説)相手との信頼関係(ラポール)を築くために、ソーシャルワークと呼ばれる社会福祉の援助技術において、ワーカー(援助者)がクライアント(利用者)に対して取るべき態度についてのルール(原則・規範)です。反対に見れば、相談相手は援助者に対して、ここに掲げるような態度を取ってもらうことを欲している、とも言えます。

臨床宗教師倫理規約vsバイステックの7つの原則

臨床宗教師倫理規約

1. 臨床宗教師は、ケア対象者の自律性を尊重しなければならない。
2. 臨床宗教師は、ケア対象者を傷つけてはならない。
3. 臨床宗教師は、ケア対象者を公平・平等に扱わなければならない。
4. 臨床宗教師は、活動する公共空間において、そのルールを遵守しなければならない。
5. 臨床宗教師は、ケア対象者の秘密を守りつつ、派遣先の情報共有のルールを遵守しなければならない。

バイステックの7つの原則

1. 個別化(利用者の個別性の尊重)
2. 意図的な感情表現(利用者の感情表現を大切に引き出す)
6. 自己決定(利用者の自己決定を尊重)
5. 非審判的態度(利用者を非難しない)
4. 受容(あるがままを受け入れる)
7. 秘密保持(ケースワーク関係において知り得た情報は秘密保持する)

臨床宗教師倫理規約

6. 臨床宗教師は、布教ととられる行為を行わず、地元の宗教者と友好関係を保たなければならない。

7. 臨床宗教師は、ケア対象者との多重関係を持つてはいけない。

8. 臨床宗教師は、ケア対象者から金員を受け取り、ケア行為を宗教的宣伝に使うなど個人的欲求または利益のために行動してはならない。

9. 臨床宗教師は、自己研鑽と相互研鑽につとめ、資質の向上を図らなければならない。

10. 臨床宗教師は、その名譽を守り、質を保証するために、倫理綱領及び本規則を遵守しなければならない。

バイステックの7つの原則

3. 統制された情緒的関与（援助者は自分の感情を自覚して吟味する）

臨床宗教師倫理規約vsバイステックの7つの原則

この違いから読み取れること



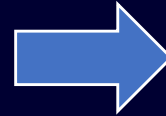
- ◇徹底した宗教色の排除(ホリスティック・アプローチの実践)
- ◇公共空間(内→外)への意識(振る舞い・協働)
- ◇高い倫理観(自浄作用をシステムとして保持)

(註)ホリスティック・アプローチ(Holistic Approaches)

相談援助場面においては、人を「個人」として捉えるときは、身体的・精神的・社会的存在として全体的に把握する考え方が必要です。こうした考え方は、保健、医療、看護、福祉、教育などの分野で実践されるようになってきました。そこでは、相互性や全体性が考慮され、科学的、客観的な根拠だけでなく、人間の主観性や固有の感性、人間関係や対話も尊重されます。

Café de Monk (お坊さんの喫茶店)

一般的事業



居場所

- ・目的and成果→明確
- ・主催者vs参加者→对象的(受け身)
- ・プログラム→計画性+評価=誘導
- ・場所づくり→整然・効率的=窮屈

- ・目的and成果→あいまい
- ・主催者vs参加者→非対称/あいまい
- ・プログラム→シンプル+自由度が高い
- ・場所づくり→手づくり感・質素=多様性



安定感←
予見可能性←

復元可能性

→恣意性
→役割演技

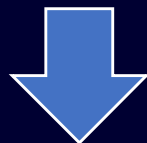
不安定感←
一期一会←

出たところ勝負

→化学反応
→役割獲得

宗教色を持ち出さない僧侶(宗教者)

「法衣をまとわず、お経を唱えず、芋を焼く、ガンジー金田」



一般的コミュニケーションツールを使わない

「視覚情報(Visual)」55%、「聴覚情報(Vocal)」38%、「言語情報(Verbal)」7%

では、丸腰か？



何気ない所作を伴った佇まい

de 傾聴

何気ない所作を伴った佇まい vs 相手(被災者・相談者)



役割期待

(註) 役割期待

参加者が相互作用を行う他者(僧侶?)と関わる時、参加者は、他者(僧侶?)にその地位にふさわし役割の遂行を期待する。

社会化過程で学んだ「僧侶像」

(引用文献)

森下伸也,2000『社会学がわかる時点』日本実業出版社.

先代 先々代がお世話
になつてゐるお墓のあ
る場所の人

変わらない場所 変わ
らない風景 変わらない
雰囲気を持している
人

長い歴史のある場所
長年関わりのある顔
見知りの人

Keyword 「変わらない場所」 「地元」 「知っている」

何気ない所作を伴った佇まい



役割期待



場を和ませる
小道具

(註) 役割期待

参加者が相互作用を行う他者(僧侶?)と関わる時、参加者は、他者(僧侶?)にその地位にふさわし役割の遂行を期待する。

(引用文献)

森下伸也,2000『社会学がわかる時点』日本実業出版社.

社会化過程で学んだ「僧侶像」(徳を積んだ人)

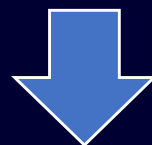


過去(後悔)と現在(納得)と未来(希望)のはしわたし

つなぐ

Community based social work

地域社会に軸足を置いて、地域住民と共に、地域社会の課題として取り組む



地域ケア

制度・サービスの充実 < 地域力(歴史・顔見知り・変わらない)に重きを置く地域ケア



「カフェ・デ・モンク」創始者の金田諦應さんが揮毫した看板。参加者をあたたかく迎える。



日高

えりも町

風のまちで 悩みに寄り添う

東日本大震災を契機に生まれた傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」が北海道えりも町でも行われている。月命日の檀家訪問を通して地域家庭の悩みを聞くことが多かった法光寺住職の佐野俊也さんが、「弱い立場の人びとの支えになれないか」と同様の思いを抱いていた地域の医療関係者らと協力して昨年夏より始めた。町役場の福祉課職員や診療所スタッフ、僧侶や牧師、ボランティアや飛び入りの人も含め毎回30名ほどが参加。お茶とおやつ、世間話を楽しみ、ふとこぼれる文句や相談事に対しては真摯に向きあうことで、地域弱者の悩みに寄り添っている。

移動傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク えりも」

えりも町本町197 えりも町民交流館「ひなた」2階
TEL.090-8709-4687(佐野) 原則として第3水曜14:00~16:00(変更あり) 参加無料

出典：風極の岬 えりも 法光寺住職の「善き人々に出逢う旅」

<https://blog.goo.ne.jp/taiki-shunya0210/e/f00581c1bb28ea7bc32af4f4ae3052d2> (2022/02/22)

『カフェ・デ・モンク えりも』 からの学び

- ・目的and成果→あいまい
- ・主催者vs参加者→非対称/あいまい
- ・プログラム→シンプル+あいまい
- ・場所づくり→手づくり感・質素＝多様性

ソーシャルワーク専門職は、人間の権利(well-being)の増進を目指し、社会の
変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人びとのエンパワメントと解放を促していく。

私がこれまで見てきたCafé de MonkのDNAを踏まえつつ、次の内容が印象的でした。

- ①臨床宗教師の傾聴は「地域ケア」だと言った制度・サービス<地域力が優位の地域ケアですが、地域力+共感力(ともに)が加わっている
- ②一般には「他職種連携」といわれます。「他職種連携」を超えた「ともに」の意識が色濃く出ている。
 - ・「一般社会の役割を問わない場」
 - ・「脱施設化」、「多世代共生」という言葉を使い、看板の「みんなの喫茶店」にも現れている。
- ③多世代共生の場→学びの場→世論形成といった一連の流れを「地域デザイン」と締め括っている。これはソーシャルワークそのものだと思います。
- ④当事者と共に災害ボランティアにも参加
 - ・喪失感を支える重要な他者としての出番
 - ・エンパワメントアプローチ
 - ・これに参加した当事者へは「リカバリー支援」という言葉で関わりの有り様を説明している。私には、参加した当事者の「自己肯定感」「有用感」を高める支援の場としても生かしていると見えた。

まとめにかえて Cafe de Monkへの期待

①地域ケアへの参画

- ・サービスの充実→「自己肯定感」を高める支援の充実で役割を発揮してもらいたい。高齢、障害は、有用感を持ってないでいます。彼らを「社会資源＝人財」として活躍できる場や機会の開発が求められています。豊富な実践例を生かして欲しい。
- ・心のケアの経験を生かして、身体的・精神的・社会的支援を一体化した「ホリスティックアプローチ」として、様々な資源・サービスの重層化の繋ぎ役を担う。

②「安定感」のある場としての存在感を生かす

- ・社会変化が著しい世の中であって、「変わらない」空間は、心の安定感・安心感を生む。
- ・過去・現在・未来のつながりを具体的な姿で見いだせる「場や機会」を設けて頂きたい。
- ・こうした場・機会を生かすことで「共にある」という、時間・人・資源を「つなぐ」役割を担い、地域共生社会の姿を具体的な形で示して行けるのではないかと考えています。

③地域資源の再開発

- ・地元の歴史・文化を下にした、地域資源の発掘や既存資源の再評価。
- ・このことをとおして、地元へ愛着を持ち、地域の有り様をデザインしていく地域住民の誇りを育み支えていただきたい。



地の利を生かした

かかり付けCSW

振り返るといつもそこにいる



質問・お叱りは以下にお寄せ下さい。

E-mail : welfare0622@yahoo.co.jp

HP・Blog : <https://welfare0622.org/>

打たれ弱いので、何とぞおてやわらかにお願いします。

これでお話しは終わりです。ご静聴有り難うございました。